

穂肥の散布時期が近づいています！

今年の生育はおおむね平年並となる見込みです。

穂肥を適期に適量を施用することで、生育後半(登熟期)の栄養不足が回避でき、収量・品質の向上につながります。

ほ場で幼穂長や茎数・葉色を確認し、穂肥の施用時期や施用量を調節してください。



この時期の葉色の濃淡の判断基準は
 葉色板 4.0(葉緑素計値 36)

品種ごとの穂肥の目安

品種	施用時期(予想日)	施用量(10a あたり)
コシヒカリ	①幼穂長10mm(7/10頃) ②その1週間後(7/17頃)	それぞれ 窒素成分2kg
きらみずき	①幼穂形成期の1週間前(7/10頃) ②その2週間後(7/24頃)	<u>有機質肥料で</u> それぞれ 窒素成分3kg

葉色が濃く、茎数が25本/株以上の場合
 →窒素成分①1kg②3kgに変更しましょう

※基肥一発体系での穂肥は原則必要ありません

しかし、出穂前に葉色が薄い場合には玄米品質の低下を防ぐために
 出穂4日前までに追肥(窒素成分 1~2 kg/10a)を施用してください。



【水管理を徹底し、高温障害を抑えましょう】

水稻の出穂期前後3週間は最も水を必要とする時期です。目安として、幼穂形成期以降は常時湛水管理を行い、品質低下を防止しましょう。

熱中症には十分に気をつけましょう！